



漁業管理と生態系保全に着目して

牧野光琢

東京大学 大気海洋研究所

PICES Human Dimensions Committee Chair

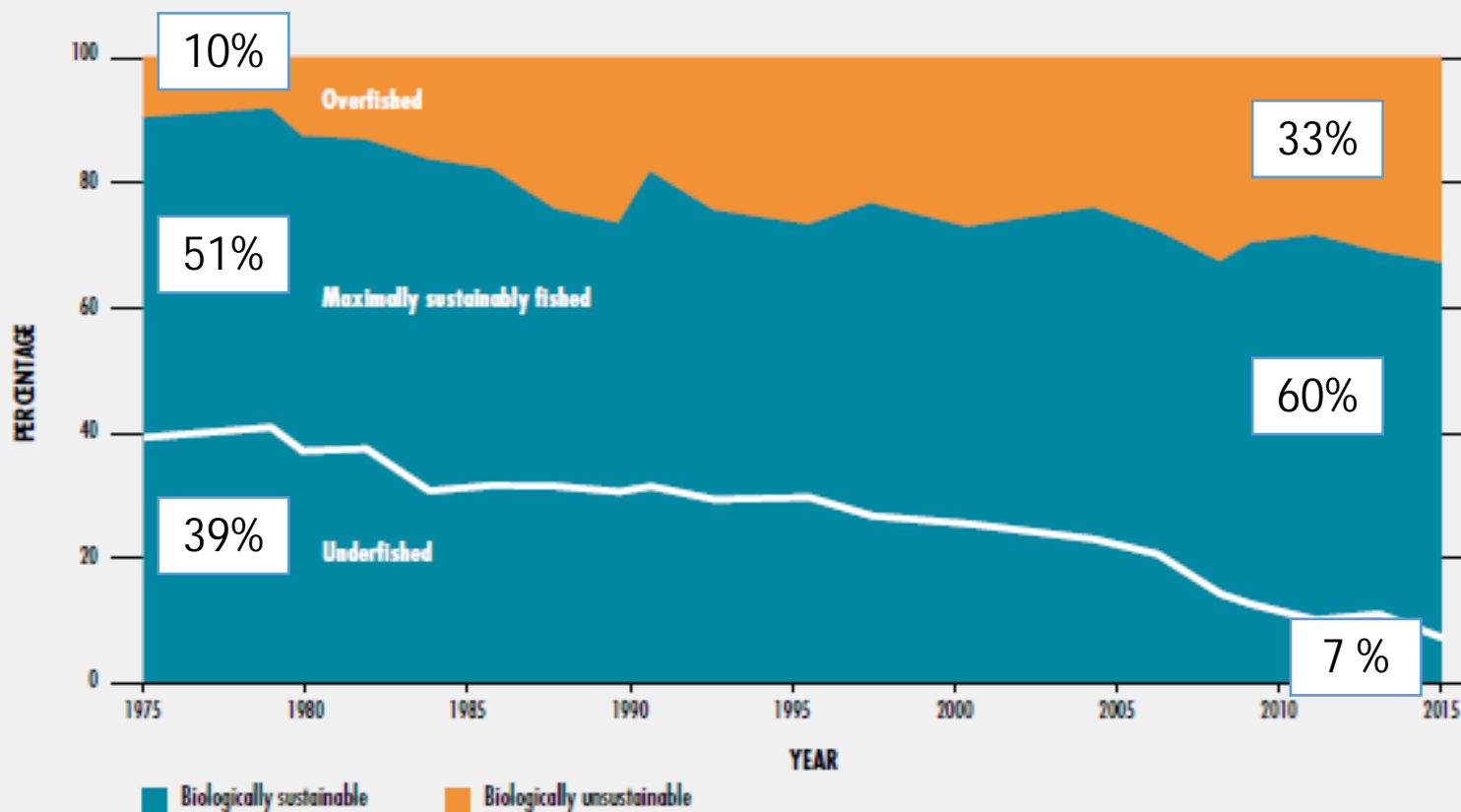
ICES Strategic Initiative for Human Dimensions Member

世界の水産資源の水準:

世界の水産物需要
はアジア中心に増大中
(半世紀で5倍)!

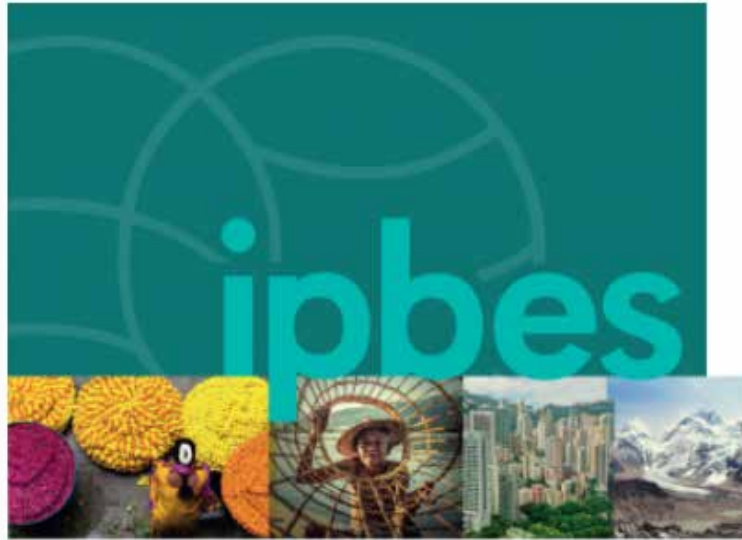
FIGURE 14

GLOBAL TRENDS IN THE STATE OF THE WORLD'S MARINE FISH STOCKS, 1974–2015



このままではいけない!

IPBES アジア太平洋地域評価(2018)の海部分



The regional assessment report on
BIODIVERSITY AND
ECOSYSTEM SERVICES
FOR ASIA AND
THE PACIFIC

- 食料の多くを漁業に頼っているが、乱獲、侵略的外来種、病気、汚染により、漁獲漁業は困難に直面。
- 早ければ 2048 年までに水産資源が枯渇。2050 年までに最大で 90% のサンゴ礁が著しく劣化

- 地域コミュニティーなど民間セクターと政府・国際機関の連携などの有効性を指摘。
- 権利に基づく地域管理の成功例として日本の漁業権を紹介 (p138, p476)。

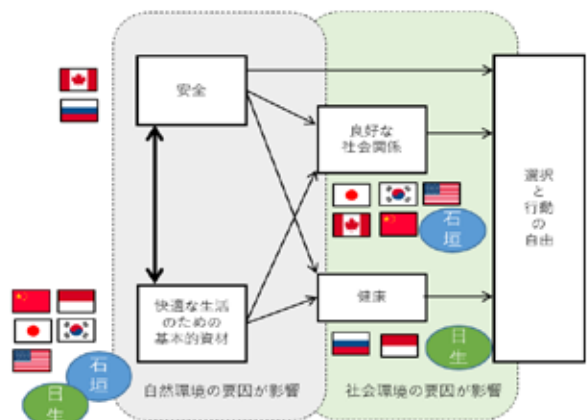
IPBESグローバル評価政策決定者向けサマリー(2019)



- 800万の動植物種のうち、100万種が今から数十年内に絶滅しかねない、など。
- 海については、珊瑚礁を形成する珊瑚の約33%、海洋哺乳類の3分の1以上が絶滅の危機にある。

現地の人々やコミュニティが環境や資源を共同管理している地域では、人間活動による悪影響が少ないか、あるいは回避されている傾向 (SPM B6, D5, etc.)

政府による施策に加え、 地域主体の生態系保全やその合意形成支援 に関する研究が今後ますます重要に



海から得られる
幸せ
(Wellbeing)の、
国や地域による
優先順位の
違い

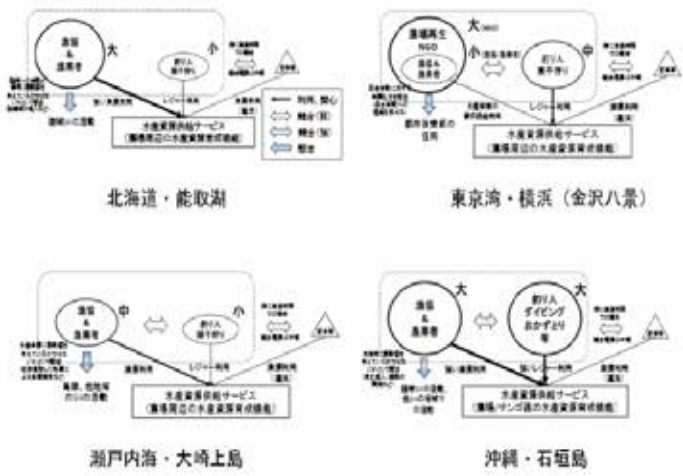
Hori & Makino (2018) Marine Policy, 法理ら(2017) 水産海洋研究

SHの関心が共通していた部分 SHの関心が異なった部分



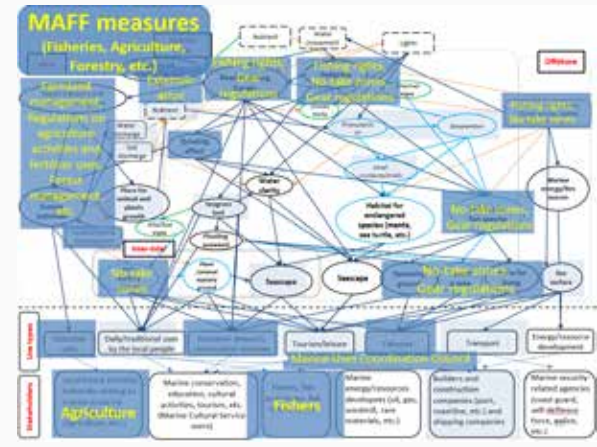
関係者の関
心の違いを
もとに、合
意形成に必
要な知見を
特定

法理・但馬・牧野(2017)沿岸域学会誌・奨励賞受賞論文



生態系保全
体制の地域
差と社会/生
態的条件を
比較

但馬・牧野(2017)沿岸域学会誌



様々な省庁
の役割分担
(環境・農水・
国交・文科・
内閣府)の整
理・分析

Makino et al. (printing)

UN Ocean Decadeにおける6つの社会的出口

1. きれいな海
2. 健全で回復力のある海
3. 予測された海
4. 安全な海
5. 持続可能に漁獲できる生産的な海
6. 透明性がありアクセスできる海

< 社会科学の視点 >

きれいとは？ 健全とは？ 誰がどう決める？
どんな回復力をどう強化する？
何を予測するべき？
何に対して安全？そこにはいくら使ってよい？
持続可能性とは？何を持続するのか？
透明性をどう制度的に担保する？
市民はそこにどうかかわることが正当？



アジアの海の
文理融合研究
をリードしてい
くことが、
日本の役割の
ひとつ